

DATA FILE



三斜晶系

名 前	AMAZONITE (アマゾナイト) / 天河石
化学組成	KAlSi_3O_8
色	青緑色
光 沢	ガラス光沢
蛍 光	なし
条 痕	白色
劈 開	明瞭
断 口	貝殻状
硬 度	6 ~ 6.5
比 重	2.55 ~ 2.63

アマゾナイト

AMAZONITE

透明に近い結晶は、エメラルドに似ていることから、その代用品として使われることがある。一方、不透明な結晶は、トルコ石やジェーダイト（ひすい輝石）の代用品として利用される。

不純物として鉛を含んでいるため、青緑色をしている。

アマゾナイトは、青緑色の微斜長石のこと。

双晶によって十文字に交差するすじ模様が、表面にみられることがある。

▲表面の拡大写真。交差するすじが見られる。

高温で溶解状態にあったマグマが、地球の深いところで固まった深成岩（特に花崗岩やそのペグマタイト中）に生成するほか、変成岩中に形成されることもある。

ケイ酸塩鉱物のなかまで、アルミニウム、カリウム、ケイ素、酸素を含んでいる。

アマゾナイトという名前は、アマゾン川流域が原産地であることにちなんでつけられた。

劈開は明瞭で、素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。また、ハンマーでたたくと貝殻状の断口があらわれる。



古代から宝石として利用

微斜長石を含む長石のなかまは、種類が多く、いずれも似ているため、個々を肉眼で確定することはむずかしい。しかし、アマゾナイトは、不純物としてわずかに含まれている鉛の影響で、鮮やかな青緑色を示すため、簡単に区別することができる。

古代エジプトの遺跡から装身具などに加工されたものが見つかるアマゾナイトは、2000年以上前から宝石として利用されてきたことがわかっている。これらは、アフリカやインドで産出したものだったが、鉱物として確認されたのが南アメリカ大陸のアマゾン川流域で発見されたものだったため、その名がつけられた。また、和名も川にちなんで、「天河石」と呼ばれることがある。

今でも、質のよい結晶は宝石に加工されることが多く、なかでも人気があるのはカボション・カットされたもの。そのほか、ネックレス用のビーズや、カメオと呼ばれる浮き彫りの装飾品にも使われる。

▶柱状をしているアマゾナイト。

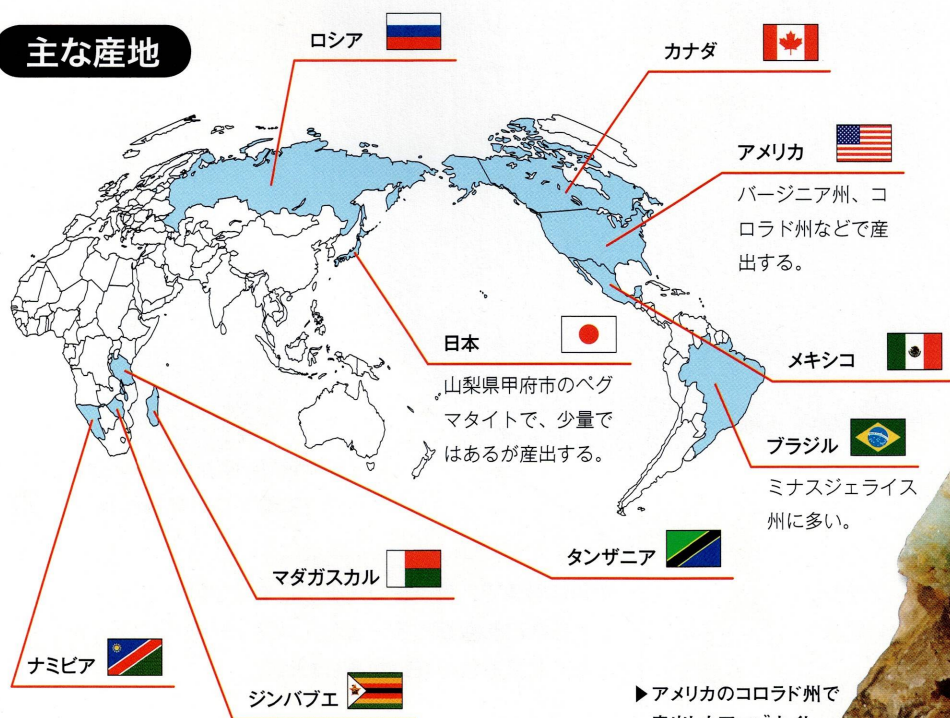


◀カボション・カットがほどこされたアマゾナイト。

微斜長石

微斜長石とは、正長石やサニディンと同じくカリ長石のなかま。肉眼では見分けが付きにくい正長石と微斜長石だが、単斜晶系の正長石に対し、微斜長石は直行軸を持たない三斜晶系になる。

主な産地



▶アメリカのコロラド州で産出したアマゾナイト。

